

# 日本地域学会ニューズレター

令和4年 no.2

令和4年8月25日

## 目次

I.	副会長挨拶	... 2
II.	日本地域学会第59回年次大会（令和4年10月8日（土）、9日（日）） 開催について	... 3
III.	令和4年度日本地域学会総会（令和4年10月8日（土）） （オンライン）出席のお願い	... 4
IV.	2023・2024年度 日本地域学会理事選挙 投票締切：令和4年9月20日（火）	... 5
V.	理事会報告 令和3年度第11回—令和4年度第3回理事会	... 5
VI.	委員会報告	... 8
	1. 名誉会員推薦委員会	
	2. 学会賞選考委員会	
	3. 機関誌編集委員会（第72回及び73回についての報告）	
	『地域学研究』バックナンバー申込み	... 11
	正会員入会申込書	... 12

## I. 副会長挨拶

日本地域学会

副会長 松本 昭夫

この発端はある日、email をチェックして、名前も聞いたことがない国際会議からの招待状を見つけたことでした。日本地域学会の多くの会員もメールボックスを開ければ、必ず1つや2つの国際会議の招待状を受け取っていることだろうと拝察します。私も毎日この種のメールを受け取っていたので、この招待状もあまり気にせず、一様開いてみました。

「(どこかの雑誌に掲載された) 貴殿の論文は私達の審査員会から特別の推薦を得たので、ついては特別講演を依頼したい」という美辞麗句が連なったものでした。いつもであれば読んだ後にメールを削除します。が、このメールは一点だけ通常のものとは異なっていました。招待講演者の往復の飛行機代(配偶者あるいは共同研究者分を含む)および会議の開催期間中の宿泊代は組織委員会が支払うというものでした。少し驚き、一呼吸おいて、やや鼻息荒く、「どうやら俺の了見を世間がようやくとわかってきたようだ！」

(志ん朝「酢豆腐」)という心持になり、つい参加承諾の返答を送ってしまいました(交渉すればビジネスも可能化もしれないという邪な気持ちもありました)。すぐに、この会議の組織委員会から”fully funded”ではないが、貴殿の宿泊代および往復の航空券は責任をもつという返答がきました。ここまではよかったのですが、ついては登録料の支払いをお願いしたいとの文言がさらりと続いていました。招待講演者、774 ユーロ、招待講演者+配偶者、1306 ユーロは当時の為替レート(130 円/ユーロ)ですと、約9万円と約17万円とかなり高額です。「招待講演なのに登録料？」とちょっと引く。一步下がって再考。冷静になって考えてみれば、「私はニッチな領域の重箱の隅をつつくような議論が多いし、客観的に見てそれほど有名でもないし、インパクトのある論文を書いているわけではないし、招待講演で航空券+宿泊代の待遇を受けるに値しない…」という当た

り前のことに気づきます。今考えれば、先方の画策した戦略(航空券+宿泊代)にまんまとはまりそうになっていたわけです。これがいわゆる fake conference と呼ばれるものとの最初の邂逅です。1年半くらい前のことです。

この会議のうさん臭さに気づき、結局、登録料は払いませんでしたが、先方からは新たな接触(リマインダー等)はありませんでした。その後、この会議名でネット上を検索してみますと、私と同様に「招待状」を受け取っている人が世界中に散見していることが判明しました。様々な分野の研究者宛にこの招待状を一斉配信した模様です。曰く、「同様の招待を受けた。組織委員会があやしい…」、「私は歴史研究者だが、工学関係の学会から招待をうけた」、「これは”genuine “ なのか ” fake”かが知りたい」、「追加的な情報があれば共有したい」等々。皆、無下には断っていないのですが(おそらく「航空券+宿泊代」が有効に作用している)、何らかの怪しげな雰囲気は感じていたのではないのでしょうか。この会議は、開催日の約2か月前に“the link is closed now...it was confirm fake”の情報が流れてきた時点でピリオド。さらに”fake conference”で検索してみると、predatory journals と同じように登録料や参加費等を集めるが実態がない会議、あるいは実際に開催はするがでたらめなプログラム編成で参加者の2/3が欠席するような学術会議の体をなしていない会議を開催する集団がいくつもあることを知りました。彼らは、主に学会や国際会議で研究報告の機会を模索する若手の研究者をねらい、営利目的でこの種の国際会議の開催しているようです。

Fake conference に関しては、インターネット上ではfake(嘘)かlegit(本当)を見分けるいくつかのチェックリストを提示して注意喚起をしているサイトも多くみられます。上記の国際会議をこのリストにそってチェックしてみたいと思います。まず件の国際会議の正式名称は以下です。

1<sup>st</sup> Euro International Multidisciplinary  
Conference on Technology, Engineering,  
Management, Education and Social Sciences

チェックリスト1は「Conferenceのタイトルがやたらと長くないか?」。人々の注意や関心を引くために大げさな言い方をするので”International”や”Global”はこの種の学会ではよく使われるとのこと、まさにビンゴ。リスト2は「会議の専門性はあるか?」。会議の名称にある”Multidisciplinary”を強調し、多くの学問分野を網羅するが、統一性のない方法で他分野を結び付けているので、チグハグ感は否めません。リスト3は「有名な人や会社がスポンサーになっていないか?」。Fake conferenceは見せかけを派手にしようとするのでホームページに誰でも知っている企業や研究所などのサポートを得ているかの様にロゴを掲載します。この会議では Google Scholar, Elsevier, DOI Directory, Research PEDIA, EBSCO Information Service 等の big name が掲載されていましたが、大きな企業はよほどの事情がないとスポンサーにはならないとのことですので、勝手にロゴマークを使っているのでしょうか。リスト4は「似たようなタイトルの Conference がないか?」。検索したところ, “1<sup>st</sup> International Multidisciplinary Conference on Engineering and Technology, Education, Management and Development Studies”が見つかりました。組織委員会等の同一性はチェックできませんでしたが、偶然でここまで一致はしないように思います。さらに International, Multidisciplinary, Conference, で検索するとそれこそ山のように類似のタイトルがヒットします。リスト5「組織委員会は信頼できるか?」。よく知られた学会や信用のある組織が会議を運営しているのであれば問題はないでしょうが、実際にはきちんとした組織が学会を運営するとは限らないことです。初めて参加する会議であれば運営主体の信憑性は必要なチェック事項です。国際会議を標榜しながら会議運営が一つの国の人だけから構成されている、無料のメールアドレスを使用しているなどは「怪しさのサイン」です。ある国際会議の組織委員会が他の Fake conference や Predatory journal の出版社と繋がっていて Conference proceedings を Predatory journals から出版する場合も多くあるようです。

インターネット等の普及・進展により我々は多くの

便益を享受してきました。ところが、一方でインターネット上の情報の信憑性や信頼性については縷々数千言が費やされています。国際会議での研究報告、専門家との議論・討論は研究を推敲する上での有効な方法です。国際会議の正当性や学術的信用を判断するガイドラインを提供してくれるサイトも数多くありますので(例えば”ThinkCheckAttend”), 日本地域学会会員諸兄には、それらを使用して国際的・学際的な研究実績を積み上げてほしいと思います。

## II. 日本地域学会第59回年次大会

令和4年10月8日(土), 9日(日)の第59回年次大会がオンライン開催となりました。

### 記

開催日: 2022年10月8日(土)~9日(日)

会場: オンラインで実施

運営: 麗澤大学

大会プログラム: (2022年8月に公開予定)

発表論文集: (2022年9月下旬に公開予定)

### (大会実行委員会)

委員長 小野宏哉 (麗澤大学)

委員 池川真里亜 (麗澤大学)

委員 大場裕之 (麗澤大学)

委員 徳永澄憲 (麗澤大学)

委員 國光洋二 (農業・食品産業技術総合研究機構)

委員 沖山充 (麗澤大学国際地域開発研究センター)

### (大会事務局)

〒277-8686 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

麗澤大学経済学部 池川真里亜研究室

E-mail: jsrsai2022@gmail.com

大会ウェブサイト:

<https://sites.google.com/reitaku-u.ac.jp/jsrsai2022>

大会へのご参加について

\*聴講参加は、上記の大会ウェブサイト内に掲載されております「第59回(2022年度)年次大会【聴講参加者】参加申込フォーム(含む座長, 討論者, 共著者)」よりお申し込み下さい。聴講参加者の参加登録期間は、2022年8月31日(水)までです。

\*発表申込は終了しました。

参加費

- ・一般会員 5,000円
- ・学生会員 3,000円
- ・非会員 10,000円

公開シンポジウム

テーマ:「地域創生と都市の持続的発展:SDGsと地域創生」

主催:麗澤大学/日本地域学会

日時:2022年10月8日(土)15:00-16:30

場所:オンライン配信(講演者とパネラーのみ麗澤大学で登壇)

Ⅲ. 令和4年度日本地域学会総会(オンライン)

日本地域学会会員各位

日本地域学会  
会長 徳永 澄憲

本年度総会を下記要領で開催致しますのでご出席ください。出席・欠席のご登録は、日本地域学会ホームページに掲載されます「令和4年度日本地域学会総会出欠確認」フォームよりお願い致します。なお、欠席される場合には同フォームより、委任状をご提出下さい。

記

日時:令和4年10月8日(土)13:00-14:50

場所:オンラインで実施

総会次第

- 1) 開会の辞
- 2) 会長挨拶
- 3) 議題
  - (1) 新入会員・退会希望者の承認
  - (2) 令和3(2021)年度の事業報告の承認
  - (3) 令和3(2021)年度の収支決算の承認
  - (4) 令和5年度の事業計画の承認
  - (5) 令和4年度の収支予算(修正案)の承認
  - (6) 令和5年度の収支予算の承認
  - (7) 日本地域学会会則一部改定の承認
  - (8) 令和5・6年期理事候補者の承認
  - (9) 第60回(2023年)年次大会の開催地開催校等の承認
  - (10) 第61回(2024年)年次大会の開催地開催校等の取扱いの承認
  - (11) その他
- 4) 報告
  - (1) 新入会員キャンペーンの継続
  - (2) 『地域学研究(第52巻)』の編集
  - (3) RSAIの動向
  - (4) PRSCOの動向
  - (5) 学会賞受賞者報告

以上

#### IV. 理事会 2023・2024 年期中日本地域学会理事選挙

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会理事候補者選挙

日本地域学会  
会長 徳永 澄憲

標記について、従来通りの方法に従い、ここに同封の官製はがきを使用して郵便による 3 名連記、無記名投票を実施します。ただし令和 4 年度まで会費納入済みの会員が投票権を有します。投票締切は令和 4 年 9 月 20 日(火)当日消印有効です。

理事会ではこの選挙結果をもとに、投票数、分野、地域等を考慮して、2023・2024 年期中日本地域学会理事候補者名簿を作成し、令和 4 年 10 月 8 日(土) 13:00 より麗澤大学オンラインにて行われる令和 4 年度総会に諮ります。

#### V. 理事会報告

令和 3 年度 第 11 回理事会 (持回り)

日時: 令和 4 年 2 月 21 日 (月) 15:00

議題について承認された。

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認
2. AsRES-AREUEA 共催 2022 年東京国際大会における協力の件

アジア不動産学会よりの協力依頼について承認された。

令和 3 年度 第 12 回理事会 (持回り)

日時: 令和 4 年 3 月 11 日 (月) 15:00

議題

1. Asia-Pacific Journal of Regional Science (以下, APJRS) Editor-in-Chief 推薦による日本地域学会学会賞の選考および授与についての内規の件  
この内規について承認された。

令和 4 年度 日本地域学会 第 1 回理事会

日時: 令和 4 年 4 月 23 日 (土) 12:55-14:39

場所: オンライン(Zoom)

出席者: 朝日, 浅見, 石橋, 内田, 鐘ヶ江, 木南(莉), 國光, 櫻井, 佐々木, 渋澤, 鈴木, 高橋, 多和田, 徳永, 野崎, 氷鮑, 藤岡, 藤田, 正岡, 松本, 三友, 三橋, 水野谷, 柳原, 吉田の各理事, 大内田監事(ただし, 福井, 梶井, 高野の理事より委任状付託; 以上理事 27 名出席); オブザーバとして, 臼井名誉理事, 大槻 2021 年次大会実行委員長, 池川, 小川, 内藤, 篠崎, 黛の各幹事

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

水野谷総務担当常任理事より, 新入会員 9 名, 退会会員 18 名について説明があり, これを諒承。この結果, 正会員 1,028 名, 法人会員 5 団体となった。

2. 2021 年度決算 (案) の審議と承認

櫻井財務担当常任理事より, 令和 3 年度 (2021 年度) 会計報告について説明があり, これを諒承。併せて学会事務局のアルバイトの時給変更について提案があり, これを諒承。

3. 2022 年度予算 (修正案) の審議と承認

櫻井財務担当常任理事より, 令和 4 年度 (2022 年度) 予算修正案について説明があり, これを諒承。

4. 2023 年度予算 (案) の審議と承認

櫻井財務担当常任理事より, 令和 5 年度 (2023 年度) 予算案について説明があり, これを諒承。

水野谷総務担当常任理事より, 令和 5 年度の事務局外部委託の移行について説明があり, これを諒承。

5. 2021 年度事業報告

水野谷総務担当常任理事より, 令和 3 年度 (2021 年度) 事業について報告(案)の説明があり, これを諒承。

## 6. 2023 年度事業計画

水野谷総務担当常任理事より、令和 5 年度（2023 年度）事業計画(案)の説明があり、これを諒承。

## 7. 第 59 回（2022 年）年次大会の並行セッション及びシンポジウムの編成

水野谷総務担当常任理事より、大会エントリー状況の説明があり、これを諒承。

徳永会長より、麗澤大学による特別セッションの編成について提案があり、これを諒承。

池川幹事より、大会の進め方および参加費について説明があり、これを諒承。

## 8. 第 60 回（2023 年）年次大会について

水野谷総務担当常任理事より、2023 年度の年次大会を名古屋大学で開催して頂けることになった旨の説明があり、これを諒承。

大会を担当する柳原理事より、挨拶があった。

## 9. 『地域学研究』セット販売の推進

水野谷総務担当常任理事より、セット販売についての説明があり、これを諒承。

## 10. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

水野谷総務担当常任理事より、新入会員勧誘キャンペーンの推進についての説明と担当者の確認があり、これを諒承。

## 11. その他

特になし

## 報告事項

### 1. 機関紙編集委員会報告

多和田委員長より第 52 巻 1 号の発行準備状況及びレフェリー評価にもとづく第 52 巻第 2 号掲載論文の選考状況についての報告があった。また、投稿規定(執筆要領)の見直しを現在行っている旨の報告があった。

### 2. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

水鉦企画担当理事より、APJRS の発刊状況と特集号の準備状況の報告がなされた。

### 3. 第 1 回学会賞優秀発表賞選考委員会報告

水野谷学会賞選考委員会副委員長より、第 58 回年

次大会での報告を対象とした最優秀発表賞 14 号授賞者の決定について報告があった。

## 4. 第 1 回学会賞選考委員会報告

水野谷学会賞選考委員会副委員長より、第 1 回学会賞選考委員会における、今年度学会賞授与候補者に関する報告があった。

## 5. RSAI の動向

木南（莉）理事より、RSAI の動向及びそれに関連し、Kohno Hirotada 賞の選考についての報告があった。

## 6. PRSCO の動向

鐘ヶ江理事より、PRSCO2022 の完全オンライン開催についての報告と説明があった。

鈴木庶務担当常任理事より、今後の大会予定についての報告があった。また、RSAI 関連の委員の決定について報告があった。

## 7. その他

特になし

次回の理事会 7 月 10 日（日曜日）一橋講堂（対面）、10 月 7 日金曜日（麗澤大学）を予定。

令和 4 年度 日本地域学会 第 2 回理事会

日時：令和 4 年 7 月 10 日（日） 13 時

場所：オンライン（Zoom）

出席者：浅見、石橋、内田、鐘ヶ江、木南(莉)、國光、櫻井、佐々木、渋澤、鈴木、高橋、多和田、徳永、野崎、氷鉦、福井、藤田、正岡、松本、水野谷、柳原、

（以上理事 21 名出席）；オブザーバとして、小野 2022 年次大会実行委員長、大内田監事、臼井名誉理事、藤岡名誉理事、三橋名誉理事、大内田監事、池川、小川、内藤、野崎、篠崎、黛の各幹事

## 議題

### 1. 新入会員・退会希望者の承認

水野谷総務担当常任理事より、新入会員 8 名、退会会員 3 名について説明があり、これを諒承。この結果、正会員 1,033 名、法人会員 5 団体となった。

## 2. 令和4(2022)年度修正予算(案)の修正について

櫻井財務担当常任理事より、令和4(2020)年度決算(案)の修正について説明があり、これを諒承。

## 3. 令和5(2023)年度予算(案)の修正について

櫻井財務担当常任理事より、令和5(2021)年度予算(修正案)の修正について説明があり、これを諒承。大内田監事より監査が終了している旨報告があった。

## 4. 令和3年度事業報告(案)の修正について

水野谷総務担当常任理事より、令和3年度事業報告(案)の追記について説明があり、これを諒承。

## 5. 第59回(2022年)年次大会の並行セッション及びシンポジウムの編成

池川幹事(麗澤大学大会実行委員)より、第59回(2022年)年次大会のウェブサイトの開設、参加費の徴収方法、シンポジウム、コロナ感染対策、その他同大会の運営及び理事会について説明がありこれを諒承。

水野谷総務担当常任理事より、並行セッション編成について説明がありこれを諒承。併せて、セッション座長と討論者の割り当てと検討を行った。

## 6. 第60回(2023年)年次大会の進捗状況

柳原理事(名古屋大学大会実行委員長)より第60回(2023年)年次大会(開催校:名古屋大学)の準備状況について説明があり、これを諒承。

## 7. 『地域学研究』セット販売の推進

水野谷総務担当常任理事より、『地域学研究』セット販売の推進についての説明があり、これを諒承。

## 8. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

水野谷総務担当常任理事より、担当者の確認及び更なる会員の拡充などの説明があり、これを諒承。

## 9. その他

臼井名誉会員推薦委員会委員長より、会則第12条1項の改定についての発議と説明があり、これを総会に諮ることを諒承。さらに氷鉋企画担当理事より、名誉会員の上限数について明文化することが提案され、これを諒承。

## 報告事項

### 1. 名誉会員推薦委員会報告

(議題の「その他」の項参照)

### 2. 機関誌編集委員会報告

多和田委員長より第52巻1号の発行準備状況及びレフェリー評価にもとづく第52巻第2号掲載論文の選考状況についての報告があった。加えて、投稿規程(執筆要領)の改定及び査読倫理規程についての報告があった。

### 3. 第2回学会賞選考委員会報告

水野谷学会賞選考委員会副委員長より、今年度の学会賞各賞の選考結果と授賞者決定についての報告があった。

### 4. RSAIの動向

木南(莉)理事より、Kohno Hirotsada 賞授賞者決定についての報告があった。

### 5. PRSCOの動向

鐘ヶ江理事より2022年の京都大会の開催準備状況についての報告があった。また、鈴木庶務担当常務理事より、総会の実施及び今後の大会予定についての報告があった。

### 6. APJRSの動向

氷鉋企画担当理事よりAPJRSのScopus CiteScore等各指標及び投稿数とアクセプト率についての報告があった。また、発刊状況についての報告もなされた。今後もSSCIやSCI等、各指標の高いジャーナルとなるように引き続き注力していくことが説明された。

### 7. その他

特になし。

## 令和4年度 第3回理事会(持回り)

日時: 令和4年7月21日(木) 15:00

議題について承認された。

## 議題

### 1. 年次大会のオンライン開催への変更の件

例外として、シンポジウムに関しては、講演者とパネラーのみ麗澤大学で登壇し、その他参加者はオンラインで参加する形式で実施する。

## VI. 委員会報告

### 1. 名誉会員推薦委員会

令和4年度第1回名誉会員推薦委員会

日時：令和4年7月10日（日）10:00-10:30

場所：オンライン(Zoom)

出席者：臼井，内田，櫻井，渋澤，氷鮑，水野谷の各委員（以上理事6名出席）；オブザーバーとして小川，内藤，野崎（乃），黛の各幹事

#### 議題

##### 1. 役員の名誉会員推薦の件

臼井名誉会員推薦委員会委員長より，会則第12条1項の改定の提案があり，協議の結果，理事会に発議することが決定された。

##### 2. その他

なし

### 2. 学会賞選考委員会

令和3年度第5回学会賞選考委員会（持回り）

（理事会と合同開催）

日時：令和3年12月11日（土）15:00

#### 議題

1. Asia-Pacific Journal of Regional Science (以下, APJRS) Editor-in-Chief 推薦による日本地域学会学会賞の選考および授与についての内規の件  
この内規について承認された。

令和4年度第1回学会賞優秀発表賞選考委員会・第1回学会賞選考委員会

日時：令和4年4月23日（土）10:30-11:00

場所：オンライン(Zoom)

出席者：朝日，浅見，内田，渋澤，多和田，徳永，氷鮑，藤岡，松本，水野谷，三友の各委員（但し，櫻井委員より委任状付託：以上理事12名出席）；オブザーバーとして小川，篠崎，内藤，野崎（乃），黛の各幹事

#### 議題

1. 令和3年度第58回年次大会学会賞最優秀発表賞選考の件

選考委員による評価の一覧にもとづき審議した結果，横澤陸氏（筑波大学）に最優秀発表賞を授与することが決定された。

2. 令和4年度第31回学会賞の選考方針

審議の結果，各賞の授賞が決定された。

（詳細は第2回委員会報告に記載）

・功績賞：該当なし

・論文賞：3件

・奨励賞：（次回の学会賞選考委員会（7月）まで引き続き推薦を受け付け）

・著作賞：2件

・学位論文賞：

博士論文賞，修士論文ともに1件ずつの推薦があった旨報告があり，レフェリー各3名を決定した。

3. 令和4年度学会賞授与式について

令和4年度総会の際にオンライン（麗澤大学）で開催予定である旨報告があった。

4. その他

なし

令和4年度第2回学会賞選考委員会

日時：令和4年7月10日（日）10:30-11:00

場所：オンライン(Zoom)

出席者：水野谷，浅見，櫻井，渋澤，多和田，徳永，氷鮑，松本，藤岡の各委員（但し，藪田委員より委任状付託：以上理事10名出席）；オブザーバーとして小川，内藤，野崎（乃），黛の各幹事

#### 議題

1. 令和4年度第31回学会賞選考の件

審議の結果，以下の通り各賞の授賞が決定された。

功績賞：該当なし

論文賞（大石泰彦賞）：

江口潜（新潟産業大学 准教授）修士（社会経済）



主題 : NIMBY (not in my backyard) conflicts: a simple game-theoretic analysis (Asia-Pacific Journal of Regional Science, Vol.4, No.3, 2020)

大塚章弘 (横浜市立大学 准教授) 博士 (経済学)

主題 : Assessment of the improvement in energy intensity by the new high-speed railway in Japan (Asia-Pacific Journal of Regional Science, Vol.6, No.1, 2022)

鐘ヶ江秀彦 (立命館大学 教授) 博士 (工学)

主題 : The attractiveness of a post - mining city as a tourist destination from the perspective of visitors: a study of Sawahlunto old coal mining town in Indonesia (Asia-Pacific Journal of Regional Science, Vol.4, No.2, 2020)

奨励賞 :

池川真里亜 (麗澤大学 助教) 博士 (学術)

主題 : Market access, domestic and Japanese supplier access, vertical agglomerations and overseas locations of Japanese food multinational firms in East Asia: comparison of the 1985-1999 and 2000-2009 periods (東アジアにおける日系食品企業の海外立地, 市場アクセス, 国内・日系サプライヤーアクセス及び垂直的集積) (Asia-Pacific Journal of Regional Science, Vol.5, No.3, 2021)

著作賞 :

鈴木聡士 (北海学園大学 教授) 博士(工学)

“Tourism and Regional Science-New Roads”, New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives, Vol.53, Springer, 2021

國崎稔 (愛知大学経済学部 教授) 経済学修士

“Theoretical Analysis of Commodity Tax in an Oligopolistic Market”, New

Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives, Vol.57, Springer, 2022

石川良文(南山大学 総合政策学部 教授) 博士 (工学)

『コロナの影響と政策—社会・経済・環境の観点から—』, (創成社, 2022.3)

博士論文賞 :

Roni Armis (Development Planning Board, Government of Sawahlunto city, West Sumatera Province, Indonesia, Head of Infrastructure Development Planning)

“A Study on the Competitiveness of Indonesian Historical Post-Mining Cities as Tourist Destinations”

修士論文賞 (熊田禎宣賞) :

李明珠(名古屋大学大学院経済学研究科 博士後期課程)

“The optimal public education investment in an endogenous growth model”

R3 最優秀発表賞 (第 14 回)

横澤陸 (筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研究群 博士前期課程)

『経済的アプローチによるインドネシア・チタルム川水質改善の提言』

2. 令和 4 年度学会賞授与式について

水野谷学会賞選考委員会副委員長より, 本年度年次大会に併せ, 麗澤大学で開催予定である旨報告があった。

3. その他

なし

3. 機関紙編集委員会

第 72 回 機関誌編集委員会

日時 : 令和 4 年 4 月 23 日 (土) 11:00 - 12:00

場所 : オンライン(Zoom)

出席者 : 多和田, 浅見, 石橋, 内田, 鐘ヶ江, 木南

(章), 木南(莉), 渋澤, 鈴木, 高橋, 徳永, 内藤, 野崎(謙), 氷鉋, 古澤, 松本, 水野谷, 三友, 柳原, 吉田; オブザーバーとして, 小川, 野崎(乃), 黛, 篠崎の各幹事

#### 審議事項

##### 1. 『地域学研究』第 52 巻掲載候補論文の選考

多和田委員長より第 52 巻 1 号の発行準備状況及びレフェリー評価にもとづく第 52 巻第 2 号掲載論文の選考状況について説明がなされた。

##### 2. 『地域学研究』の執筆要綱を定める規程について

多和田委員長および内田事務局次長より, 頁数制約や冊子体の印刷及び文献リストの記載方法等に関する, 『地域学研究』の執筆要綱を定める規程の改訂の提案と説明があり, 今後更に検討を進めることとなった。

##### 3. 『地域学研究』セット販売価格について(資料 2)

水野谷総務担当常任理事よりセット販売価格およびバックナンバーに関するセット販売についての提案がなされ, 原案通り承認された。

#### 報告事項

##### 1. Asia-Pacific Journal of Regional Science(APJRS)について

氷鉋企画担当理事より, APJRS の発刊状況について報告がなされた。また, Scopus CiteScore 等各指標の状況および Special Issues に関しての説明がなされた。

##### 2. その他

『地域学研究』の投稿論文の査読について質問がなされ, 多和田編集委員長より, 今後の検討についての説明がなされた。

#### 第 73 回 機関紙編集委員会

日時: 令和 4 年 7 月 10 日 (土) 11:00-12:00

場所: オンライン(Zoom)

出席者(敬称略): 多和田, 浅見, 石橋, 内田, 鐘ヶ江, 木南(章), 木南(莉), 櫻井, 渋澤, 鈴木, 高橋, 徳永, 内藤, 野崎(謙), 福井, 氷鉋, 廣野, 古澤,

松本, 水野谷, 柳原; オブザーバーとして, 臼井名誉理事, 小川, 野崎(乃), 黛, 篠崎の各幹事

#### 審議事項

##### 1. 『地域学研究』第 52 巻掲載候補論文の選考(資料 1)

多和田委員長より第 52 巻 2 号の発行準備状況及びレフェリー評価にもとづく第 52 巻第 3 号掲載論文の選考状況について説明がなされた。

##### 2. 同上機関誌印刷方針

多和田委員長より投稿状況を勘案しながら次期の地域学研究の発刊時期を検討する旨, 説明がなされた。

##### 3. 規程の改訂について

内田事務局次長より, 『日本地域学会「地域学研究」掲載論文等の執筆要綱を定める規程』の改訂の提案と改定案の詳細な説明があり, 今後更に検討を進めることとなった。

##### 4. 投稿論文の審査上の倫理について(資料 7)

多和田委員長から, 投稿された論文の査読について, 担当編集者の査読者指名に関する注意と役割, および査読者の査読上の注意点についての提案がなされ, 継続審議となった。

##### 5. APJRS について

氷鉋企画担当理事から, APJRS の Scopus CiteScore や h-Index 等の各指標及び投稿数とアクセプト率, ダウンロードされた論文の状況について説明がなされた。

# 『地域学研究』バックナンバー/ 定期講読申込書

宛先: 筑波大学生命環境系水野谷研究室  
〒305-8572 つくば市天王台1-1-1  
tel +81-29-853-7221 (fax)

日本地域学会事務局 御中

日本地域学会機関誌の定期講読を申込ます (8,000 円/ 年)。(PRINT ISSN: 0287-6256)

下記のとおり、日本地域学会機関誌のバックナンバーを申込ます。

令和 年 月 日 氏名:

印

所属:

住所:

電話, fax:

E-mail:

記念事業セット販売																				
フルセット:『地域学会年報(1-6号)』+『地域学研究(第1-48巻)』								580,000円												
セミセット:『地域学研究(第1-48巻)』								550,000円												
								小計		円										
『地域学会年報』(第1-6号)																				
1号 10,300円						2号 10,300円						3号 10,300円								
4号 10,300円						5号 10,300円						6号 10,300円								
『地域学研究』(第1-19巻)																				
第1巻 8,000円								第2巻 8,000円								第3巻 8,000円				
第4巻 8,000円								第5巻 8,000円								第6巻 8,000円				
第7巻 8,000円								第8巻 8,000円								第9巻 8,000円				
第10巻 8,000円								第11巻 10,000円								第12巻 10,000円				
第13巻 8,000円								第14巻 8,000円								第15巻 10,000円				
第16巻 8,000円								第17巻 10,000円								第18巻 10,000円				
第19巻 9,400円																				
『地域学研究』(第20-28巻) no.1,no.2																				
第20巻 no.1 9,000円								第20巻 no.2 3,500円								第21巻 no.1 10,000円				
第21巻 no.2 3,500円								第22巻 no.1 10,000円								第22巻 no.2 3,500円				
第23巻 no.1 10,000円								第23巻 no.2 3,500円								第24巻 no.1 10,000円				
第24巻 no.2 3,500円								第25巻 no.1 10,000円								第25巻 no.2 3,500円				
第26巻 no.1 10,000円								第26巻 no.2 3,500円								第27巻 no.1 10,000円				
第27巻 no.2 3,500円								第28巻 no.1 10,000円								第28巻 no.2 3,500円				
『地域学研究』(第29巻-)no.1,no.2,no.3																				
第29巻 no.1 7,000円								第29巻 no.2 3,500円								第29巻 no.3 7,000円				
第30巻 no.1 7,000円								第30巻 no.2 3,500円								第30巻 no.3 7,000円				
第31巻 no.1 7,000円								第31巻 no.2 3,500円								第31巻 no.3 7,000円				
第32巻 no.1 7,000円								第32巻 no.2 3,500円								第32巻 no.3 7,000円				
第33巻 no.1 7,000円								第33巻 no.2 3,500円								第33巻 no.3 7,000円				
第34巻 no.1 7,000円								第34巻 no.2 3,500円								第34巻 no.3 7,000円				
『地域学研究』(第35巻-)1ボリューム4冊一括販売 16,000円; 8,000円/冊																				
第35巻 no.1						第35巻 no.2						第35巻 no.3						第35巻 no.4		
第36巻 no.1						第36巻 no.2						第36巻 no.3						第36巻 no.4		
第37巻 no.1						第37巻 no.2						第37巻 no.3						第37巻 no.4		
第38巻 no.1						第38巻 no.2						第38巻 no.3						第38巻 no.4		
第39巻 no.1						第39巻 no.2						第39巻 no.3						第39巻 no.4		
第40巻 no.1						第40巻 no.2						第40巻 no.3						第40巻 no.4		
第41巻 no.1						第41巻 no.2						第41巻 no.3						第41巻 no.4		
第42巻 no.1						第42巻 no.2						第42巻 no.3						第42巻 no.4		
第43巻 no.1						第43巻 no.2						第43巻 no.3						第43巻 no.4		
第44巻 no.1						第44巻 no.2						第44巻 no.3						第44巻 no.4		
第45巻 no.1						第45巻 no.2						第45巻 no.3						第45巻 no.4		
第46巻 no.1						第46巻 no.2						第46巻 no.3						第46巻 no.4		
『地域学研究』(第47巻-)1ボリューム2冊一括販売 8,000円; 6,000円/冊																				
第47巻 no.1						第47巻 no.2						第48巻 no.1						第48巻 no.2		
第49巻 no.1						第49巻 no.2						第50巻 no.1						第50巻 no.2		
第51巻 no.1						第51巻 no.2														

※第48巻以降セット販売の場合、第47巻までのセット価格+第48巻以降1巻当り30%割引価格となります

**購入総額合計** \_\_\_\_\_ 円

※ 申込該当箇所には○をする。□にはチェックする。

機関購入の場合は、氏名、所属に見積り、納品、請求書宛名機関名等を記入、責任者押印 以上

令和元年12月15日改定

# 日本地域学会 正会員 入会申込書

20 年 月 日

日本地域学会  
会長 徳永 澄憲 殿

日本地域学会 会則第5条に定める正会員として下記の通り入会を申し込みます。

氏名： 印

## 記

ふりがな				年 月 日生 歳 ※男・女
氏名				同英文 (last name, first name)
所 属 先	機関名	( 年 月より)		同英文
	所属			同英文
	職名			同英文
	所在地	〒		同英文
	電話： ( )		fax: ( )	
	e-mail			
自 宅	住所	〒 配送希望先※ (どちらかを○) 勤務先・自宅		同英文
	電話： ( )		fax: ( )	
	e-mail			
学 歴	年 月入学			
	年 月※卒業・修了・満期退学			
職 歴	年 月			
	年 月			
	年 月			
	年 月			
専 門 分 野	専攻：		学位： ( 大学)	
	<i>Regional Science Association International (RSAI)</i> の研究領域分類 (複数回答可, 入会案内参照)			
	I. ISSUE ORIENTATION		II. THEORETICAL/METHOD-LOGICAL ORIENTATION	
	III. MODE OF ANALYSIS		IV. REGIONAL FOCUS	
所属他学会				
紹介者 (会員に限る)				印

以上 (※は該当項目に○をする)

事務局記入欄 入会承認 年 月 日 第 回理事会 退会承認 年 月 日 第 回理事会